

研究活動報告

Project 3

奥本 京子

プロジェクト3は2014年11月に活動を本格化させ、建設的・積極的なコミュニケーションのあり方を検討し、人間社会における関係性構築のための多様な形態について調査・研究を行ってきた。以下に、過去一年間の主な活動を列挙する。

***ワークショップ「アニメを通じた平和教育：ワークショップと場づくりの意味」**

日時：2018年10月29日

会場：大阪女学院大学 会議室I

共催：国際協力コース

講師・ファシリテーター：高部優子氏。現在、教育関係の映像制作会社を運営しながら、横浜国立大学博士課程後期で平和教育と映像を研究している。恵泉女学園大学非常勤講師。

内容：講師・ファシリテーターの高部氏が、「平和」にこだわり研究・実践するようになった経験について共有し、2012年、清泉女子大学大学院地球市民学専攻修士課程で、包括的平和教育、紛争解決学を学び、解説書つきアニメーション『みんながHAPPYになる方法』（平和文化）を出版したことが、現在の仕事の原点である。また、2018年には、平和学の開拓者の一人であるヨハン・ガルトウングの平和理論を、アニメーション化した。そのアニメを視聴し、ワークショップの形式で、「平和研究」とは何かを、また、平和、暴力、紛争解決などの重要概念を共に考える実践を展開した。参加者からも多くの発言があり活発なワークショップとなった。

***研究会「今後の「ファシリテーション（メディエーション）」研究の方向性について」**

日時：2019年6月12日

会場：大阪女学院大学 2F 演習室

内容：研究会の形で、特に誰かがファシリテーター・講師を務める設定ではなく、参加者が自由に議論を深めた。参加者が、各自の研究・実践領域について簡単に紹介し、「ファシリテーション」との関係（の可能性）について共有した。キーワードを挙げるとすれば、例えば、平和紛争学、トレーニング・教育、芸術アプローチ、開発教育、教育開発、グループ実践、学びの場、

心理学トレーニング各種、ゲシュタルト療法。多様な人たちの中の包摂、ジェンダー・外国人の視点、組織開発、グループワーク、コーチング。リトレや授業で学生が自らの体験的なものに依拠する実践、など。これを受けて次回に繋げることを共通の意図とした。「共生」や「ファシリテーション」概念のイメージ図づくりを、キーワードなどを分類することで実践してみるようになった。

***研究会「各学問領域における「ファシリテーション（メディエーション）」研究の位置づけについて」**

日時：2019年7月17日

会場：大阪女学院大学 2F 演習室

ファシリテーター：奥本京子、前田美子（大阪女学院大学 教員）

使用言語：日本語（必要に応じて英語）

内容：「ファシリテーション」をめぐるファシリテーション（ワークショップ形式での実施）というべきか。前回の研究会を受け、「ファシリテーション」とは何か、「ファシリテーター」とは誰か、について、イメージ図づくりを行った。マーカーでキーワードを一つずつ書き込んだ多くの付箋を、模造紙に貼りつつ、議論を深めていった。議論の末、まずは基準となる一軸を立ち上げるとした。両極を、委ねる・任せるタイプと、積極的タイプとし、提案された多数のキーワードを貼り出した。今回は、この図を基に、各自の研究・実践領域がどう重なるのかを共有する予定である。



7

研究会開催報告

ファシリテーション・メディエーション研究 (Project 3)

- 第17回 日 時：2018年10月29日
講 師：高部優子氏
タイトル：「アニメを通じた平和教育：ワークショップと場づくりの意味」
共 催：国際協力コース
- 第18回 日 時：2019年6月12日(水) 12時45分～13時20分
タイトル：「今後の「ファシリテーション(メディエーション)」研究の方向性について」
- 第19回 日 時：2019年7月17日(水) 16時40分～18時10分
タイトル：「各学問領域における「ファシリテーション (メディエーション)」研究の位置づけについて」

大阪女学院大学国際共生研究所 公開研究会

奥本 京子

- 第1回 2019年6月18日(火) 18時20分～19時50分 会議室I
共催：大阪女学院大学国際協力コース
「ルワンダの大量虐殺から学ぶ平和構築」第1回
- 第2回 2019年7月2日(火) 18時20分～19時50分 会議室I
共催：大阪女学院大学国際協力コース
「ルワンダの大量虐殺から学ぶ平和構築」第2回

国際協力コースの学生ら(4年生)によるシリーズ企画である。25年前のルワンダ・ジェノサイドに関するドキュメンタリー

の鑑賞とワークショップを通じ、深く学ぶ機会となった。各回に40名ほどの参加者を得て、学生はファシリテーションの難しさと楽しさを学びつつ、参加者全員で、人類史上残酷を極める経験をしたルワンダの人々が、対人の平和構築をどう実現してきたのかや、NGO・市民社会の活動のもとで実践される和解のプロセスから、生きること・生命について、謝罪・赦しとは何かについて、対話を実践した。